

LIBRARY NEWS

令和6年1月31日 No.11

新座市立第三中学校

校長 石田 和男

(図書室だより) 図書整理員 名本 浩子

近ごろ、桜の開花予想を耳にするようになりました。今年は、例年より早い開花になるようです。「春よ来い、早く来い」。やさしい日差しを受けて咲く、淡いピンクの桜が恋しく思われます。

さて、先日、17日に、第170回芥川賞 直木賞が発表されました。芥川賞を受賞した『東京都同情塔』の作者 九段 理江さんは、受賞のインタビューで、この作品は、チャットGPTのような生成AIを駆使して書いた小説で、これからも生成AIをうまく利用しながらも、自分の創造性を発揮できるような小説を書いていきたいと話しました。この受賞は、AI時代の今後の小説のあり方について視聴者に波紋を投じたのではないのでしょうか。

近年、全国の書店数は、2003年では約2万1000店あったのが、2022年には、約1万1000店と、19年間で半減しています。その背景には、活字離れやネット書店の普及があります。本好きの人には、地域になじみの本屋さんが消えていくのは、一抹の寂しさを覚えます。

JR佐賀駅構内にあった唯一の書店も、4年前の大雨災害の影響で閉店していましたが、昨年12月に、新たな店がオープンしました。第166回の直木賞受賞作家の今村 翔吾さんが書店の代表を務めています。今村翔吾さんは、出版不況を救おうと、廃業の危機にあった大阪府の書店も経営していて、この佐賀の書店が2店舗目になるそうです。書店だからこそ『予期せぬ本との出会いの機会』を作っていきたいと、“町の本屋”の魅力について話していました。三中の図書室も、そんなすてきな出会いの場であってほしいと思いました。

そこで、今号の問題は、今村 翔吾さんが直木賞を受賞した、時代小説『塞王の楯』からの出題です。この本のタイトル、『塞王の楯』の「楯」が具体的に表しているものとは、次のうち、どれでしょう。

- ① 何度倒されてもあきらめずに敵に立ちはだかる民衆
- ② どんな攻めからも城を守り抜く頑強な石垣
- ③ どんな頑強な城でも打ち抜く破壊力のある鉄砲



前号のクイズの答え、龍のきらいなものは③の五色の糸でした。子どもの日の“こいのぼり”に、五色の吹き流しを立てるのも、龍の災難から逃れるためのもので、現在にも伝わる風習だそうです。

今号の問題の答えをみつけるヒントの本は、分類番号913、35の棚にあります。かなりの長編ですが、歴史が苦手な人でも、夢中になるおもしろさがあります。お城好きの人にもおすすめの一冊です。



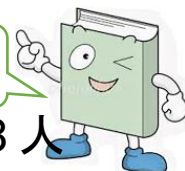
表彰！2学期多読学級 校内ベスト3

先日、18日の生徒会専門委員会で、2学期に多く本を借りた学級に『多読賞』の賞状が授与されました。

3学期末には、年間の多読賞を発表する予定です。

3学期も、図書室にたくさん足をお運びください！

多くの来室、
お待ちしております！



1年1組 66人 2年6組 35人 3年7組 33人
(78冊) (75冊) (55冊)

8, 9, 10組 80人(167冊)



3年生のみなさんへ

3年間、図書室を利用してくださり、ありがとうございました。

3年生の本の貸し出しは2月末日までとなります。

進路や卒業のことで忙しいとは思いますが、時間のあるときに、図書室まで顔を見せに来てください。卒業前にお会いできることを楽しみにしています。

新着図書のご案内

今回は、怖い本、ホラーやミステリー本を集めました。まずは、タイトルから不穏な雰囲気漂う本からお楽しみください。

『葬式同窓会』

乾ルカ/著 (中央公論新社)



7年ぶりに再会した、白麗高校3年6組の元クラスメートたち。それは同窓会ではなく、担任だった水野先生の葬儀だった。

二度と戻りたくないあの頃のやり残しを今、遂げようとする。大人になるとはなにか。それぞれの登場人物とともに 読者も自身に問いかける。

『おまえなんかには会いたくない』、『水底のスピカ』に続く“白麗高校シリーズ”。

『好きです、死んでください』 中村あき/著



無人島での恋愛リアリティーショーの撮影中、人気女優が密室で殺された。本土と隔絶された島にいたのは出演者とスタッフをあわせて8人のみ。

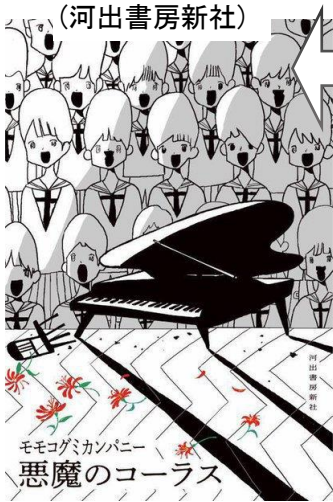
いったい誰がどうやって殺したのか。

「クローズド・サークル(外界から閉ざされた環境)」×密室×連続殺人。

衝撃の結末が待つ孤島ミステリー！

『悪魔のコーラス』

モモコグミカンパニー/著 (河出書房新社)



創立百周年の名門学園が抱える闇とは？

すべての鍵はこの学園に転校してきた主人公の父の死の真相。

クリスマスの合唱祭で、すべての闇が明らかになる！

学校でいじめられて明日に夢はなく、趣味は……心霊動画を見ることくらい。

不遇の高校生たちが生きる証を打ち立てようと突き進んでいく。

『毒をもって僕らは』

冬野 岬/著 (ポプラ社)



第11回
ポプラ社小説新人賞
特別賞 受賞

『フォトミステリー』

道尾 秀介/著 (WANI BOOKS)



写真から生まれた50のショートショート物語。

笑えるもの。ゾクッとくるもの。その写真を自分でどう解釈するかを楽しめます。

1話がとても短いのであつという間に読め、時間のない人にもおすすめの一冊です。

ホラー本 大集結！

『ジャンル特化型

《14歳の世渡り術》

ホラーの扉 八つの恐怖の物語』

(河出書房新社)



- ・レイワ怪談シリーズ 『レイワ怪談 上弦の章』
- ・事故物件住みます芸人 松原タニシの『怖い食べ物』
- ・田中 俊行/著『あべこべ』
- ・『ゾゾゾのお時間がやって参りましたー』
- 『特別編 読むゾゾゾ 捨てられた心霊写真』
- ・『意味がわかるとゾッとする怖い博物館』

ほか多数。

インパクトのある表紙！

色鮮やか！
タイトル文字が
キラキラ！



恐怖の後には笑いが。伝説の傑作「恐怖の味噌汁」、
「悪の十字架」も収録！

アートの暗部をあぶりだす、禁断の小説集



スターウォーズのダース・ベイダーみたい！